

インフォシス、製薬会社向け SAP ベースのパーソナライズ

医療ソリューションの提供を開始

アナリティクス、ブロックチェーン、IoT を利用したソリューションで、患者管理、サプライチェーン、法規制へのコンプライアンスに対応

バンガロール (インド) – 2020 年 6 月 29 日: 次世代デジタル・サービスおよびコンサルティングの世界的リーダーである [インフォシス](#) (NYSE: INFY) は、本日、製薬業界向けの新製品となるパーソナライズ医療ソリューションの提供を開始することを発表しました。このソリューションは、SAP S/4HANA®、SAP C/4HANA® スイート、SAP® Analytics Cloud ソリューション、および SCI® プラットフォームを活用してインテリジェントなインサイトを導き出し、パーソナライズされた経験を患者に提供するとともに、製薬会社は業務上および法規制上の重大な要件に対応することが可能です。

インフォシスのパーソナライズ医療ソリューションは、製薬会社におけるプロセスのデジタル変革を実現し、ビジネスの成果をいっそう強固なものへと推進します。このモジュール化されたソリューションでは、高度なアナリティクスを使用して、受付や予約から治療後の処置までの患者個人の治療ライフサイクル管理を実行し、これにより患者の治療ライフサイクルを有意に削減できます。重要なコールドチェーン物流と成果ベースの請求には、IoT とブロックチェーンを活用しています。このソリューションは、既存の業務プロセスに最小限のディスラプションでシームレスに統合でき、導入期間を短縮し、これにより製品の迅速な市場化を実現します。

インフォシスの **シニア・バイスプレジデント兼ライフサイエンス担当グローバル責任者の Subhro Mallik** は、「デジタル技術と生物学の飛躍的な進歩を受けて、パーソナライズ医療市場は目覚ましく発展すると予想されており、当社はこの分野を非常に大きな機会と捉えています。デジタル技術によって、製薬会社は市場化までの時間を高速化でき、より優れた患者体験を提供できるようになります。SAP S/4HANA を活用する当社のパーソナライズ医療ソリューションは、製薬会社に及ぶディスラプションを最小化し、確かなデジタル変革を成し遂げられるよう支援します」と述べています。

HfS のチーフ・リサーチ・オフィサー である **Saurabh Gupta 氏**は、「顧客中心主義は、今やヘルスケア・ライフサイエンス産業で最も重要な戦略目標になっています。インフォシスと SAP により、扱わなければならない複雑な企業のネットワーク（支払者、プロバイダー、製薬会社）が取りまとめられ、患者に対しパーソナライズされた包括的な可視性と透明性が提供されることについて、非常に興奮しています」と述べています。

SAP のシニア・バイスプレジデント兼 HCLS 事業部責任者の Joe Miles 氏は、「グローバルな製薬会社は SAP S/4HANA を活用して、パーソナライズ医療をはじめとする新しい治療的モデルを推進しています。これ実現するために、ライフサイエンス産業のリーダー企業たちは、自らのビジネスモデルとサプライチェーンを破壊し、こうした命を救う、個人に合わせた治療的モデルを提供することに成功しています。組織は従来の「見込み生産 (make to stock)」モデルから脱却し、高度にパーソナライズされた「受注生産 (make to order)」モデルへと進化しなければなりません。これには大量のゲノムデータ、治療データ、患者データの集約と分析が必要です。しかも、リアルタイムに、エンド・ツー・エンドで、大規模に実行しなければなりません。SAP S/4HANA が提供するデジタル・コアは、インテリジェントなライフサイエンス企業によって注目すべき薬剤や機器が創出されるよう支援します。インフォシスが提供するパーソナライズ医療ソリューションと SAP S/4HANA のパートナーシップにより、企業は SAP S/4HANA のデジタル・コアに対する投資を、インフォシスの思想的リーダーとしての専門知識と組み合わせ活用できるようになります。これは、この新しい市場における、当社のお客様の成長と規模拡大を実現するものです」と述べています。

詳しい情報は、<https://www.infosys.com/industries/life-sciences/features-opinions/personalizing-medicine-intelligent.html> でご覧になれます。

インフォシスについて

インフォシスは次世代デジタル・サービスとコンサルティングのグローバル・リーダーとして、世界 46 か国でお客様のデジタル変革を実現しています。約 40 年にわたるグローバル企業のシステム・業務管理の実績に基づき、専門家としてお客様のデジタル・ジャーニーを推進します。変革の優先順位の判断において、当社では企業が AI を導入したコアを利用できるようにしています。また、ビジネスにアジャイル手法とデジタル化を大規模に導入することで、かつてない高いレベルのパフォーマンスと顧客満足度を提供いたします。当社の常に学ぶ姿勢は、デジタル・スキル、専門知識、および当社のイノベーション・エコシステムから創出されるアイデアの確立と移転を通じて、お客様の継続的改善を実現しています。

インフォシス (NYSE: INFY) が次のステージへと進む企業を支援する方法については、www.infosys.com をご覧ください。

セーフハーバー条項

本リリースに掲載されている報告書の一部は、当社の将来的な成長を予測するものであり、多くのリスクや不確定要素が介在しているため、実績と大きく異なる場合があります。このようなリスクと不確定要素には、収益の変動、当社の成長管理能力、費用効率に影響する可能性のある IT サービス分野における競争の激化、インドにおける人件費の高騰、高い技能をもつ専門的な人材を確保する当社の能力、固定価格・固定時間による契約における時間や経費の超過、顧客の集中化、出入国制限、業界セグメントの集中化、国際業務を管理する当社の能力、当社の主力分野であるテクノロジーの需要低下、通信ネットワークの崩壊あるいはシステムの故障、企業買収を成功させる当社の能力、当社サービス契約に対する損害賠償責任、戦略投資した企業の業績、政府援助の打ち切り、政治不安および地域紛争、インド国外での増資・企業買収に対する法的制限、当社知的所有権の不正使用、この業界に影響を与える経済情勢などが考えられます。当社の将来的な業績に影響すると思われるその他リスクについては、2012 年会計年度（2013 年 3 月 31 日付）年次報告書（Form 20-F）と 2013 年第 1 四半期（2013 年 4 月－7 月期）（Form 6-K）を含め、米国証券取引委員会へ提出された当社報告書に詳細に記載されています。これらの報告書は、www.sec.gov でご覧いただけます。インフォシスは、米国証券取引委員会や当社株主への報告書など、書面および口頭により将来の展望を適宜発表する場合がありますが、当社により随時発表された将来の展望について更新する義務を負わないものとします。

お問合せ先

インフォシスリミテッド 日本支店

マーケティング本部長 安藤 jo_ando@infosys.com 09010450448